

The Twofold Task

－神戸三田キャンパスの発展を願って－

村 田 治

神戸三田キャンパスは今年で開設22年目を迎えます。2013年にはアカデミック・コモンズが、また、2015年には理工学部新たに三つの学科が開設され新たな発展が期待されます。アカデミック・コモンズでは、理工学部と総合政策学部の学生が一緒になって新しい取り組みを行っています。その中には、昨年、一昨年と時計台をキャンパスに見立てたプロジェクションマッピングの製作に携わった「からくり堂」の活動も含まれます。まさに、理工学部と総合政策学部の学生の協働により新しいアイデアや融合が生まれています。神戸三田キャンパスのアカデミック・コモンズは、他の大学の共同学習空間とは異なり、授業を前提とせず、学生の自主的な研究活動の場となっており今後の発展が期待されます。

また、理工学部に新設された3学科が目指すのは、社会の持続的発展やQOLの向上などの「グリーン・イノベーション」と「ライフ・イノベーション」です。これらは、数学、物理、化学、生命科学、情報などさまざまな分野の連携や融合によって初めて可能になります。また、異なった分野の融合という意味では、総合政策学部は設立当初から、学際的で能動的な教育や研究を行っています。

1889年に関西学院を創立されたランバス先生は、医療と伝道という二重の任務（The Twofold Task）を追及されました。それは信仰と科学の融合と考えることもできるでしょう。関西学院大学では、SGU構想の基礎にダブルチャレンジ制度を位置づけています。専門分野以外に、海外での学び、学外での学び、他分野の学びのいずれかにチャレンジさせるという制度です。この背景には、独創性やイノベーションは異なった領域の知識や知恵が結合するときにしか生まれないという考え方があります。アイザック・アシモフも言っていますように、異なった分野の出会いや融合こそが、イノベーションや創造性を生み出す源泉であると考えます。まさに、理工学部や総合政策学部が取り組もうとされていることに他なりません。また、KSC戦略本部の「神戸三田キャンパスにおける将来構想」の基本にも「世界と競う文理シナジーキャンパスの創設」が謳われています。異なった分野に取り組むというThe Twofold Taskこそが、これからの社会の変革やイノベーションにとって必要不可欠であると考えます。今後、神戸三田キャンパスから発信されるイノベーションに大いに期待したいと思います。

(学長)